

ポイント

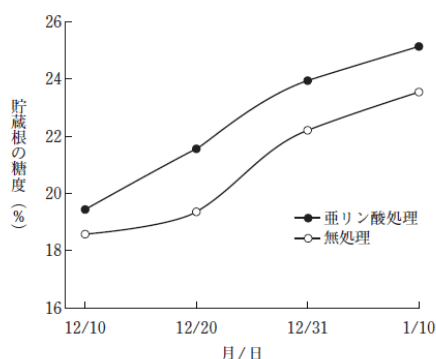
- 茎枯病の発生している圃場では、降雨によって被害が拡大します。
雨の合間を縫って防除を実施しましょう！！
- 今から茎葉の刈り捨てまでの時期は来年の収量確保の上で重要です。茎葉を大事にして、貯蔵養分を蓄えるようにしましょう。
- 野ネズミによる被害株が発生している圃場も見られます。野ネズミ対策も徹底しましょう。

1. 病害防除

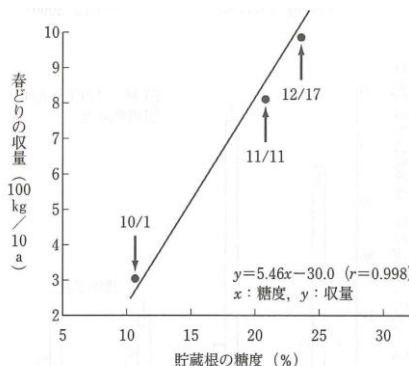
- ・ 茎枯れ病が蔓延すると、茎葉のダメージが多くなり、貯蔵養分が大きく減少し、来春の収量が減少するため、防除を行う。
- ・ 今年はオオタバコガ等のチョウ目害虫の発生が非常に多いです。圃場で被害が見られる場合は、防除を行う。

2. 茎葉の刈り取り

- ・ 刈り取り時期の目安：11 月上～中旬頃
- ・ 茎葉が全体的に黄化した頃が刈り取り適期。早すぎる刈取りは翌春の来春の収量減少の要因となるため、できるだけ黄化しきるのを待って刈取りを行う。
- ・ 近年は秋の気温が高く、黄化が遅い傾向にあることから、最上地域では亜リン酸処理（トップスコアリン 1,000 倍）を 10～14 日間隔で使用している事例もある。



第22図 亜リン酸による転流促進処理と貯蔵根の糖度 (Brix値) (井上, 2006)



第21図 アスパラガスの前年の貯蔵根の糖度と春どりの収量との関係 (長崎総農林試, 1998)

亜リン酸処理により
① 転流促進効果と貯蔵根の糖度上昇が期待できる。
② 春どり収量の向上が期待できる。

・ 刈り取り時に残る切り株にも茎枯れ病菌は多く生息しており、来年の発病原になるため、可能な限り地際部で刈り取る。

3. 茎葉刈り取り後の管理

・圃場の雑草防除：来年の雑草対策のため、通路に茎葉処理型の除草剤を散布する。アスパラガスの畝上に飛散しないように注意して散布を行う。

4. 野ネズミ対策

- ・近年は暖冬傾向で、夏の密度だけでなく、一年中発生密度が多い傾向にある。特に冬は食べ物が少なくなるのため、糖度の高いアスパラガスの貯蔵根が狙われるため、対策をしっかりと行う。
- ・圃場周辺に隠れる場所を作らせないように、圃場周囲の雑草対策等を徹底し。ネズミが住みにくい圃場環境作りを行う。
- ・堆肥場や残渣置き場、その他隠れ家になるものは片づける。（ネズミの特性として、鳥等から狙われるのを防ぐため、見渡しの良い所は移動しない。）
- ・アスパラガスの残渣だけでなく、所有果樹園の果実等、食べ物となるものを圃場周辺に置かないよう注意する。

【殺そ剤による駆除】

農地で使用可能な殺そ剤（例）

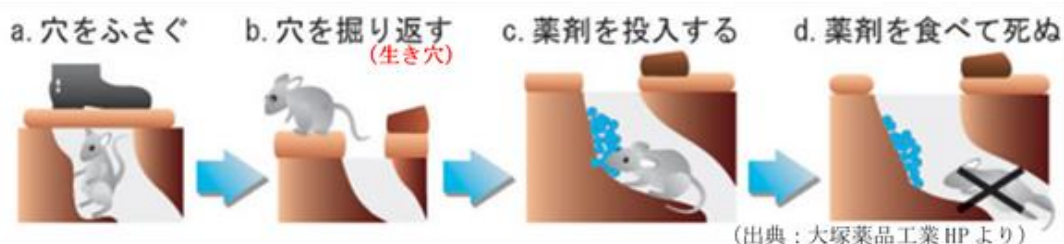
系統	特徴	薬剤例	特徴	そ穴投入法	BS 法
クマリン系	・抗血液凝固作用による内出血を起こす。 ・えさ忌避を起こさない。 ・効果発現に時間がかかる。 ・薬量が多くなる。	粉末ラテミン	大豆等にまぶして使用	○	○
		ラットシード F	ヒマワリの種に大豆油等で粉末ラテミンをまぶしたもの	○	○
ダイアzin 系	・3～5日の連続喫食が必要。 ・ネズミ以外の動物に対して安全。	ヤザン	小袋入りタイプ（防水性有り、積雪下でも有効）	○	○
リン化亜鉛	・胃酸との反応で発生したガスによる窒息を起こす。 ・効果が速い。 ・えさ忌避が起きやすい。 ・水分により分解する。 ・ネズミ以外の動物にも害がある。	Z・P Z・P1.00	とうもろこしをベースとした粒タイプ	○	

※Z・P や Z・P1.00 等のリン化亜鉛剤は、急性毒性が強いので、ペットや家畜への二次的な危害を防止するため、穴の深くに投入し、必ず穴の入口をふさぐ。家畜施設や住宅地周辺では使用しない。

殺そ剤の使用方法

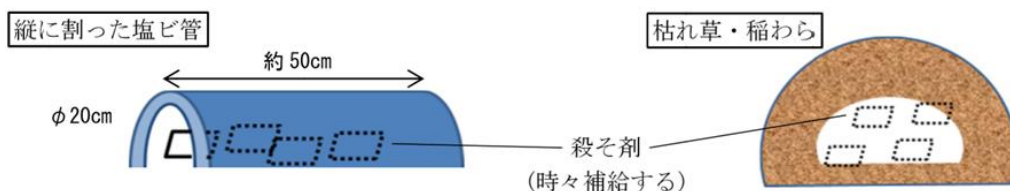
	処理方法	特徴
そ穴投入法	そ穴に直接薬剤を投入する。	生き穴を狙って投入すれば効率的に防除できるが、手間がかかる。
バイトステーション法（BS 法）	わらや枯草を一定間隔（5～10m）で山にして設置し、その下に薬剤を設置。	周囲をきれいにしておけば、積雪中にネズミが集まってきて薬剤を食べるため省力的。

ア. そ穴投入法



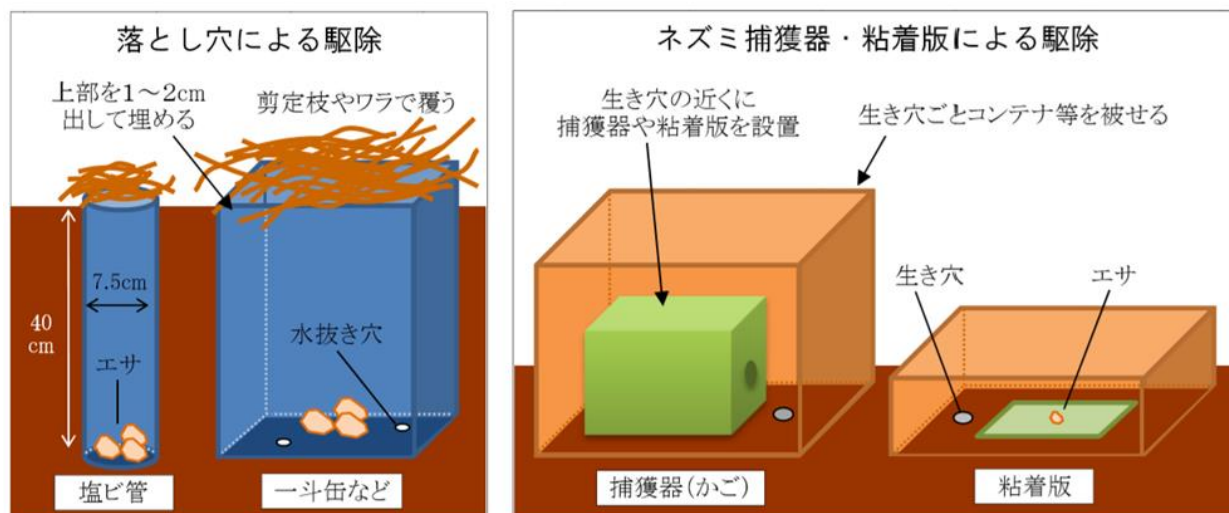
- ・一度穴をふさいで回り、再度掘り返されている穴はねずみが使っている穴(生き穴)のため、掘り返されている穴をめがけて処理すると効率的である。
- ・殺そ剤は、カラス等も誘引するため、なるべく穴の深くに薬剤を投入し、穴の入り口をふさぐ。

イ. ベイトステーション法 (BS 法) ※積雪後にも効果あり



- ・餌場は、市販のベイトボックスの他、縦に割った塩ビ管、古タイヤ、枯れ草・稲わらなどの資材で自作してもよい。稲わらで作る場合は、稲わらを敷いた上に薬剤を置き、その上に稲わらや落ち葉をかぶせ、全体をビニールで覆う。
- ・4 か所/10a 程度設置する。圃場周辺に配置する。
- ・殺そ剤は防水の小袋タイプが有効。

ウ. 落とし穴、捕獲器、粘着板による駆除



- ・5～6 か所/10a 程度設置する。設置後は、時々捕獲状況を確認し、エサの交換を行う。

【重要】いずれも、殺そ剤を扱う際や捕獲器等を設置する際は、人間や人工的な臭いがつかないように注意する。

殺そ剤の処理は、犬や猫の変死が出ないように、住宅地周辺等、圃場の周囲環境に良く注意して、適切に行う。

STOP！農作業事故～農作業時の安全確認を徹底しましょう！！～